

令和7年度 名古屋大学宇宙地球環境研究所主催 夏休み体験学習 実施報告
「中央構造線から読み解く地球～断層・岩石・年代測定を通じた地球科学～」

超学際ネットワーク形成推進室 南 雅代

2025年8月26日、27日の2日間、小学校高学年25名(4年生11名、5年生11名、6年生3名)を対象に、「中央構造線から読み解く地球～断層・岩石・年代測定を通じた地球科学～」と題した、宇宙地球環境研究所主催の夏休み体験学習を実施しました。

初日は、大型バスをチャーターし、中央構造線(関東から九州へ日本列島を縦断する大断層)のほぼ真上に位置する長野県・大鹿村中央構造線博物館と、近くを流れる小渋川沿いにある大西山崩壊地を訪れました。現地では、断層や岩石の産状、山崩れに関する野外観察を行いました。子どもたちは、伊那山地(内帯)のマイロナイト(断層岩)や花崗岩、赤石山脈(外帯)の緑色片岩、かんらん岩、砂岩など、気に入った岩石を思い思いに採集していました。小渋川は多数の崩壊地形を有し、土砂の流入が非常に多い川として知られており、治水対策として昭和44年に建設された小渋ダム(天竜川水系初のアーチ式コンクリートダム)の見学も行いました。

2日目は、名古屋大学宇宙地球環境研究所にて、岩石・鉱物に関する講義を受けた後、偏光顕微鏡を使って岩石の薄片の組織を観察し、岩石ごとに異なる組織構造についても学びました。また、土砂災害による被害の様子や対策の効果を理解するための模型を用いた室内実習も行いました。最後に、2日間の学びをまとめたポスターを3班に分かれて制作し、それぞれのポスターを前に使った発表会を行いました。この発表会には、保護者の方にもご参加いただきました。

なお、本事業は文部科学省の【東海・北陸】8月の科学技術関連イベント一覧に掲載されました。また、実施にあたっては、令和7年度名古屋大学地域貢献特別支援事業(総長裁量経費)を使用しました。

引率者:南 雅代・加藤丈典(名古屋大学宇宙地球環境研究所), 西本昌司(愛知大学)

河本和朗(大鹿村中央構造線博物館)

